

平田 まき子

「環境を知ること
・考えること」

私と「おかやま環境ネットワーク」との出会い
は、元上司であった野上
先生の紹介でネットワ
ークの「環境講座」を受講
した時である。この講座
は、身近な問題から法律
全般まで幅広く取り上げ、
複雑に絡み合う環境問題
の難しさを改めて実感さ
せてくれた。日頃、あま
り気にしていなかったこ
とも、改めて浮き彫り
にし、考えてみようとい
う気にさせてくれた。ま
た、それを受講している
方々の真剣さにも驚いた。

私は、職場で上水や排
水の分析に携わっている
が、時々刻々改正される
法律への対応を迫られて
続けてきた。測定項目は
増える一方で、規制値も
徐々に厳しくなってくる。
新たな測定機器がなくて
は測れないものも増えて
いる。科学が進歩すれば
するほど、昔、わからな
かったことがわかるよう
になってきたし、正解と

までとはいえなくても、
それなりに説明が出来る
ようになってきた。しか
し、色々なことがわかる
ようになればなるほど、
新たな疑問が湧いてくる。
理解しようと思ってもな
かなか追いつかない。も
っとシンプルに考えない
と私の頭は破裂するの
ではないかとも思われてく
る。それでも、講座の受
講者の多くが地球の未来
を憂えているのだとい
た感心させられたし、「エ
コロジカルフットプリン
ト」なんていう言葉も初
めて知った。知らないこ
とは沢山ある。でも、ど
のような状態がベターな
のが私にはわからない。

今の大学生の中には、
ホースポンプ、俗に言う
灯油ポンプというものを
知らないものがある。年
を追うごとにそんな学生
が増加中。考えてみれば、
生活はエアコン・電気が
主流であるから、スイッ
チを押すことはできても
自分が動力となってポン
プを動かすという経験は
ない。マッチをすれない
子供も多いとか。今の子
は、教えられないと自然
に経験するチャンスがな
い。そんな子供たちに、
自然がどうの、環境がど
うのといっても理解でき

ないのではないかと環境
に関する知識の生かし方
が空回りしないようにす
るにはどうすればよいの
か。生活の便利さと環境
問題との関係を考え直す
必要があるのではないか。
便利さと科学の進歩とは
別にしなければいけない
と思うけれど……。地
に足のつかない知識が空
回りをしているようにも
見える。

私の職場には、幸いな
ことに緑が多い。ここ数
年、メジロなどの鳥がよく
飛来する。サザンカの
蜜が目当てのようだ。サ
ザンカは、ずいぶん前か
ら植えられているが、鳥
が来るようになったのは、
ここ数年である。鳥たち
に何が合ったのかはわか
らないが、なぜかメジロ
が窓ガラスに激突してく
るのである。このような
環境の変化に対応できる
考え方を常日頃から持ち
あわせたいと思っている。

平田 まき子氏

1954年生まれ。
(学)加計学園・水質
管理室勤務。(財)お
かやま環境ネットワ
ーク評議員。